

中長期目標 (学校ビジョン)	「暖かき人間関係」「高い志と生き抜く力」「自己への挑戦」を大切に社会に貢献出来る人材の育成を目指す。	今年度の重点目標	1. 基礎学力の向上・資格の取得 2. 基本的生活習慣の習得・徹底 3. 認め合う力の向上 4. 進路指導の充実・早期実現
-------------------	--	----------	--

年度当初				評価結果				最終評価		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方法	評価	目標の達成状況	次年度引継ぎ事項等
基礎学力の向上・資格の取得	○学習意欲の喚起 ○授業の質の更なる向上 ○放課後学習の向上 ○資格取得率の向上	○不登校傾向等により学習の空白時間を有する生徒も多く、基礎学力の定着（主に英語・数学）が充分とはいえない。 ○職員間による授業の質に差がある。 ○昼間に登校できない生徒数名が放課後に学習しているが計画的な質の高い指導が出来ていない。 ○全校生徒が受検する検定試験（漢字検定・パソコン検定）の合格率が35%程度とあまり高くない。	○学ぶこと、分かることの喜びを知り、意欲的・自立的・計画的な学習展開が図れる。 ○授業の質向上のために、職員の自己研鑽が日々行われ、定期的に研究授業を実施し、指導力の平均値が上がっている。 ○目標の達成のために放課後、意欲的・自立的・計画的に学習する姿が見られる。 ○各種検定試験の合格率が50%以上。	○生徒にとって分かりやすく魅力ある授業づくりに努め、基礎学力の向上を図る。特に1年生は英語・数学と苦手な分野を克服し、自信をつける。 ○自己研鑽の評価として様々な資格に挑戦する。研究授業をすることで授業に対する職員の意識を高め、授業の質を上げる。 ○スケジュールを決め、放課後学習のきめ細かい指導を徹底し、学力を引き上げる。 ○資格を取得する意義を浸透させ、意欲を高め、反復練習（表による見える化）によって合格率を高める。	○特に1年生は中学校からの復習から入り、徐々に学力が定着しつつある。全体としては追試験を受ける生徒が少なくない。 ○二名の職員が資格を取得。研究授業は前期は出来ずに終わった。 ○長期・短期のスケジュールを決め、レポートは順調に進みつつある。 ○見える化により合格率が上がりつつある。（パソコン検定は45%）	B	○追試験者を0に近づけるためにも日々の学習を大事に指導していく。 ○前期できなかった研究授業を行い、授業の質を高める。 ○レポート以外にもプラスアルファも実施し、学力を上げていく。 ○45%の合格率を50%まで引き上げるべく、より意識を高め実践していく。	B	○計画的に学習する姿勢が見られ前期試験より後期試験の追試験者が格段に減少した。 ○後期には研究授業を行うことができ職員の意識が高まった。 ○放課後に登校する生徒も意欲的かつ計画的に学習する姿勢が見られ、漢字検定で2級に合格する生徒もいた。 ○漢字検定の合格率50%、パソコン検定の合格率46%であり、漢字検定は達成出来た。	○良い結果が出ると学ぶことが楽しくなり意欲的・自立的・計画的に学んでいけるので結果を見えるような工夫が必要。 ○一年間を通しての研究授業の実施が必要。 ○計画的に学習を進めることが出来、結果が出たので計画性の大事さを生徒に伝えて行くことが必要。 ○パソコン検定合格への意欲を更に高める必要がある。
基本的生活習慣の習得・徹底	○ルールや公共の場でのマナーの向上 ○清掃活動の習慣化	○身だしなみを整えられない生徒・時間を守れない生徒が一部見られる。 ○掃除を人任せにする生徒が一部見られる。	○社会で通用する身だしなみと生活習慣・時間管理が身に付いている。 ○自らが率先し毎日清掃活動を行っている。	○月に一度、服装検査を実施することで「身だしなみ」の確認を行う。登下校時、毎日職員が由良駅まで行き、公共施設でのマナーの徹底を図っている。時間を自身で管理し自発的に行動する意識を高める。 ○日ごろの清掃活動の取り組み指導、それに合わせて施設を綺麗に使用する意識を持たせる。	○暑い時期にはネクタイ・リボンを緩める生徒が見られたが、ほとんどの生徒が身だしなみは良くなってきた。時間に関しては、職員が授業開始5分前には教室に行き、時間を意識させている。 ○職員がいなくても自発的に清掃活動を行う生徒が増えてきた。	B	○身だしなみにしろ時間にしろ緩んでくるのは細かいところからなのでそこを注意しながら指導していく。 ○生徒が自ら周りの生徒に呼びかけ清掃活動を行う文化を作り上げていく。	A	○完璧ではないが身だしなみ、時間管理は出来るようになってきた。 ○自分の担当場所が終わったら他のところも手伝う生徒が出てきた。	○まだまだ呼びかけが必要。 ○自発的に清掃を行えるようになってきたが声をかけながら一緒に行うことが必要。
認め合う力の向上	○信頼し合える関係作り ○クラスでの仲間作り ○学校全体での仲間作り	○他人に対し壁を作り、心を開くことが出来ない生徒が見られる。 ○クラス内での不仲により欠席が増える生徒が見られる。 ○学年を超えた仲間意識が希薄になっている。	○生徒同士、生徒・保護者と職員同士が認め合い何でも話せる雰囲気がある。 ○人間関係のもつれが原因の欠席を無くす。 ○全校生徒が仲良く、楽しく生活している。	○日頃の会話から否定しないことを心がけ、お互いがお互いのことを認め合える雰囲気を作る。 ○少人数クラスを活かし生徒への目配りと授業担任との情報交換により生徒の人間関係を把握する。 ○選択授業・体育において縦割りの中で生徒主体となり計画し、協力して実行していく。	○認め合うことで良好な人間関係が出来つつある。 ○昼休憩時にクラスに一人の職員が生徒と弁当を一緒に食べることでクラス内の様子を把握している。 ○選択授業はかなり自主的に取り組んでいるが、体育はあまり自主性がない生徒が見られる。	B	○良いところをどんどん褒めていき、もっと良好な人間関係を築いていく。 ○授業中、休憩中に得た情報をもっと職員間で共有し合う。 ○体育はもっと自主的に参加できる工夫を導入する。	B	○仲の良い生徒が固定化されており、狭く深くの関係が作られつつある。ソフトなタペの継続によって保護者との信頼は築けてきた。 ○人間関係のもつれからの欠席は無くなった。 ○学校全体で笑顔が多く見られた。	○信頼の輪をもう少し広げていく必要がある。ソフトなタペを継続し職員と保護者の信頼関係を積み上げていく。 ○目に見えない人間関係（特にライン等）を今後は注意していく必要がある。 ○日々の生活が楽しく居心地が良いので出席日数が全体的に増えてきた。
進路指導の充実・早期実現	○幅広い視野・職業観の更なる育成 ○進路希望と適性に対する自己理解の更なる促進 ○進路実現に向けての早目の具体的な行動化	○視野が狭く、偏っていると同時に職業に関する知識が少ない。 ○自己理解が乏しい、なりたい自分が見えていない生徒が見られる。 ○目標はあるが具体的な行動を起こせていない生徒が見られる。	○生徒が幅広い選択肢の中から進路目標を見つけ、その実現のために日々努力している。 ○自己を理解し、理想の自分を見つけている。 ○自らの進路について真剣に考えることで、日々の生活が規律ある充実したものになっている。	○職業人講話を実施することにより社会人としてのマナーの習得や職業理解を深める。と同時に視野を広げる。出前授業、学校見学を実施することにより進学に関する選択肢の幅を広げる。 ○定期的にキャリア教育を実施することにより自己理解を促し「なりたい自分」を見つける。 ○就職希望者はインターンシップを実施する。就職セミナー等にも参加し、就職に関する学習の機会を増やし、早目の行動を意識させる。また、進学希望者は興味のある学校へのオープンキャンパス等に積極的に参加する。放課後に中央予備校とタイアップし学力アップを図る。	○職業人講話を3回、出前授業を1回、学校見学を1回実施出来、生徒たちも多方面に興味を示した。 ○なりたい自分の前に自分を好きになることが必要。 ○進学希望者はオープンキャンパスに早い時期から参加出来た。また、就職希望者はインターンシップ、職場見学、就職セミナー、就職ガイダンスに参加できた。	B	○今後も計画通りに実施していくことと、全校生徒に職場見学を実施し、働くとはどういうことかということも考えさせたい。 ○自分を好きになるために検定や生活において自信をつけさせたい。 ○まだ進路が明確になっていない生徒が見られるので相談回数を増やし、早い段階で進路を明確にし、決定していく。	A	○職業人講話や出前授業を通して選択肢を増やすことが出来た。 ○自分の長所や短所、得意分野、苦手分野を理解することが出来た。 ○年々、卒業後の進路を考える時期が早くなっており良い傾向にある。	○今後も多様な職業人講話や出前授業の継続が必要。 ○キャリア教育、検定等で自己理解、自己肯定感を持つことが出来るので継続していく。 ○進路に向けての取り組み時期に差があるので、特に遅い生徒には個別の対応が必要。

評価基準 A: 概ね達成（80%以上） B: 変化の兆し（60%程度） C: まだ不十分（40%程度） D: 方策の見直し（30%以下）